第１学年８組　保健体育科学習指導案

指導者　　高松市立香東中学校　豊嶋　尚尊

１　単元名　　武道「剣道」

２　単元でめざす生徒の姿

|  |
| --- |
| 打つことの楽しさを味わい、「一本」を取るために自己の課題を考え、仲間と協力して解決策を見出そうとしている。そして相手の動きに応じて打ったりすることができる。 |

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 〇剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することができる。  〇相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができる。 | 〇自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。  〇自己の考えたことを他者に伝えることができる。 | 〇相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守り、剣道に積極的に取り組むことができる。  〇個々の能力の違いや男女差による違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることができる。  〇禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができる。 |

４　単元について

1. 単元の考察

　武道は、武技、武術などから発生したわが国固有の文化であり、基本動作や基本となる技を身につけ、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高めあう楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道への取り組みを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する対人的な技能を基にした運動である。その中でも剣道は、複雑に変化する相手の動きに対応し、「一本」を決めたり、相手と真剣な態度で向き合うことで緊張感や集中力を味わうことができるところに魅力があると考える。しかし、相手を打つことに躊躇したり、打たれることに恐怖感を抱くことが考えられる。

本単元では、武道の魅力や面白さをすべての生徒が味わうことをめざし、その学習プロセスを通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が育まれるようにする。本単元で実感させたい武道の魅力とは「相手の動きに応じて技を決める」ことである。そのために対人での活動を中心とした単元構成を行い、その中での成功や失敗について振り返る場面をつくり、ペアやグループで話し合ったりしながら学習を進めていく。特に相手の動きに応じるために、自己が動き出すタイミングに着目させていく。本単元を通して、武道における相手の動きに対応して技を決めること、自己やグループの課題分析とその解決方法の視点を獲得し自他の運動課題に対して主体的に追求することができるようになると考える。

1. 生徒の実態

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **アンケート項目** | **男子** | **女子** |
| 体育が好き | １５名 | １１名 |
| 剣道が楽しみである | ８名 | ６名 |

　本学級の生徒は男子１６名、女子１７名、計３３名の学級である。明るく活発で、男女の仲もよい。授業では積極的に活動に取り組んだり、互いに励まし合ったりするなど前向きな行動が見られる。本学級の生徒は小学校時に武道の学習を行っていない。単元前のアンケート調査では、右表のような結果となった。体育が好きと答えた生徒に対して、剣道の授業を楽しみにしていると答えた割合が低いことが分かる。主な理由には、「痛そう」「打たれるのが怖い」「球技のほうが好き」「したことがないから分からない」などの理由があった。武道の経験がないことから、多くの生徒が剣道に対して苦手意識や恐怖心を持っていると考えられる。

(3) ３つの“対話”の実現に向けて

①　剣道の魅力を追及して、生徒に味わわせるために

剣道の授業において打たれることへの恐怖心を和らげるために、竹刀の打突部（物打ち）にクッション材を巻き使用する。本単元では小手を着装せず、胴と垂のみを着装し行う。小手を着装せず素手で行うことで、竹刀を扱いやすくなり、打突部位を正確に打ち「一本」を決めることができる喜びをすべての生徒が味わうことができるようにする。そのほか、剣道の魅力や面白さを味わうことができるように下表のような工夫を行う。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 工夫点 | 設定の理由 |
| 竹刀 | | ・打突部（物打ち）にクッション材を巻き使用する。 | ・クッション材を巻くことで、打突時の大きな音を軽減し、恐怖心を和らげる。  ・打突に失敗した際のけがを防止する。 |
| 剣道具 | ・小手 | ・使用しない。 | ・素手で行うことで竹刀を扱いやすくし、「正確に打てた。」などの喜びを味わうことができる。 |
| ・胴 | ・打突部位（右胴）に印をつける。 | ・打突部位を視覚化することで、自己や友だちの評価がしやすくなり、課題発見することや達成感を味わうことができる。 |

②　課題解決に向けたＩＣＴの活用

　学習を進めていく中で生徒が感じる「どうして正確に打てないの？」「なぜ一本にならないの？」から課題を明確にするために映像資料等を活用する。これらは主にグループミーティングで活用される。自己の課題を発見するだけでなく、なかまの課題を発見したりなかまの課題から自己の課題を発見するなど、全ての生徒が課題への気づきや解決の道筋を考えることができるようにつなげたい。さらに見本となる映像資料と比較したりすることでグループミーティングにおいて対等に考えを伝えることができると考える。

1. 学習指導計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | １ | ２・３・４ | ５・６・７ | ８ |
| 学習活動 | オリエンテーション  ・剣道体験 | 基本技能の習得  ・基本動作（体さばき）  ・基本打突（面・胴） | ・既習技練習  ・抜き技（面抜き胴） | ・面抜き胴の判定試合  ・単元のまとめ |
| 備考 | 着装・礼法 | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価機会 |  | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | 評価方法 |
| 知 | ① | ② |  | ② |  |  |  |  | 学習カード |
| 技 |  |  | ① |  | ② |  | ③ |  | 観察 |
| 思 |  | ② |  | ② |  | ① |  |  | 学習カード、観察 |
| 態 |  |  | ③ |  | ② | ① |  | ② | 観察、学習カード |
| 評価規準 | 知 | ①剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、主として高まる体力要素について、ワーク  　シートに書き出している。  ②剣道で用いられる技の名称と、それらを身につけるためのポイントについて言ったり  　書き出したりしている。 | | | | | | | | |
| 技 | ①相手の動きに応じて、体さばきを行うことができる。  ②基本打突を用いて打つことができる。  ③相手の面をかわして、隙ができた胴を打つことができる。 | | | | | | | | |
| 思 | ①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、自己やなかまの課題や出来栄  　えを伝えている。  ②練習の場面で、なかまの伝統的な所作等のよい取組を見つけ、理由を添えて他者に伝  　えている。 | | | | | | | | |
| 態 | ①なかまと協力し、武道の学習に積極的に取り組もうとしている。  ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。  ③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 | | | | | | | | |

５　本時について（６／８時間）

1. 本時の目標

　〇　胴を打つタイミングについて、自己の考えたことを伝えることができる。

　〇　自己やなかまの課題解決に向けて、なかまと協力して取り組もうとしている。

(2) 準備物

　竹刀、防具、ワークシート、タブレット端末、ホワイトボード

(3) 学習指導過程　　　　　　　（○配慮事項　●おおむね満足できると判断できる状況　［　］評価方法）

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容及び活動 | 指導上の留意点及び評価 |
| １　準備運動・補助運動を行う。  ２　本時の学習課題を把握する。  ・面抜き胴のポイント  ①相手の面打ちに応じ、送り足で右前に大きく踏み出し、すれ違いながら胴を打つ。  ②相手の胴の印を竹刀の打突部で捉える。  ３　面抜き胴の段階的練習を行う。（ペア学習）  ・向かい合い、礼  ①正対し、面抜き胴を３回打つ。  ②打たせる側は面を打ち込み、打つ側は抜き胴を踏  　み込んで打ち、残心を残す。  ・向かい合い、礼  面抜き胴の見本動画を示す  ４　約束練習を行う。（４人グループ）  　※手刀で行う。  ・向かい合い、礼  ①遠間→一足一刀の間合い  ②打たせる側が面打ち（振りかぶり、踏み込むまで）  ③面打ちに応じ、面抜き胴  ④残心  ・向かい合い、礼  ５　本時のまとめを行う。  (1)約束練習の出来栄えをグループで伝え合う。  (2)次時の説明を聞く。 | ○　なかまと協力し垂と胴を着装できるよう、2人1組で確認し合って行うようにする。  ○　本時の活動につながる準備運動・補助運動となるように、意識するポイントを指導する。  相手の動きに応じて、面抜き胴を決めるにはどのタイミングで打てばよいだろうか。   * 前時の学習を振り返り、面抜き胴のポイントを   　再度確認することで、本時の課題を明確にする。  ○　練習の前に、応じ技（抜き技）は相手の技に対  　して応じ、その技をかわして打つ技であることを  　おさえ、実際の攻防を意識して行えるように指導  　する。   * 面抜き胴の見本を見せることで、良い動きのイ   メージを持つとともに、自分の動きと比較して課  題を見つけやすくする。  ○　元立ちの自由なタイミングで面打ちを行うこ  　とで、実際の攻防に近い形で練習が行えるように  　する。  ○　手刀で行うことで、実際の試合に近いスピード  　感を味わえるようにする。  ○　タブレット端末で撮影し映像分析をすること  　で、客観的に自己評価ができるようにする。  ○　常に相手を尊重させて行う。  思考・判断・表現  ●　胴を打つタイミングについて、自己の考えたことを伝えることができる。［学習カード、観察］  ○　なかまの課題を伝えるだけでなく、なかまの良い点を自分に生かせるようなグループ活動になるように指導する。  主体的に学習に取り組む態度  ●　タイミングよく面抜き胴を決めるために、なかまに助言しようとしている。　［観察］ |